

まちづくりと予算



総合企画室 ☎829-1111

財政課 ☎829-1126

長崎市では、まちづくりの指針となる「**長崎市第四次総合計画**」に沿ってまちづくりを進めています。

そして長崎は今、「経済」のあり方、「まちの形」「まちを支える仕組み」を変えるべき重要な時期を迎えていて、現在の課題を解決しながら、未来に向けて一步一步着実に歩みを進める必要があります。

そのような中、平成25年度の予算が決定しました。この予算に基づいて、長崎市はさまざまな仕事に取り組みます。



第四次総合計画

総合計画は、これからの長崎市がめざす将来の都市像と、その実現のために必要な施策や取組みを体系づけて示したものです。

平成23～32年度を計画期間とする第四次総合計画では、将来の都市像を「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」とすることも、これを実現するためのまちづくりの基本姿勢を「**つながり**と**創造**で**新しい長崎へ**」としています。

これは、変化の激しい時代のなかで、今後も発展し続けるために、世界がその価値や魅力を認める「**長崎らしさ**」と人間を起点に考える「**住みやすさ**」に重きを置きながら、新しい長崎をみんなで創っていくというものです。予算はこの計画に基づき作成し、編成しています。

※総合計画の詳しい内容は、長崎市ホームページをご覧ください。総合企画室へお問い合わせください。



進化を形に！

今と未来のために必要な予算

あなたの子どもや孫が、大人になっても笑顔で暮らせるまちは素敵ですよ。そのためには、社会がこれからどう変わっていくかを見据え、今までの取組みを十分検証し、今と未来につながる施策に積極的に取り組む必要があります。そこで、今年度の予算は、第四次総合計画を着実に進めるとともに、持続可能な財政運営も両立しながら、長崎市の進化を形にする取組みに重点配分を行いました。

進化を形にする取組み

進化を形にして、将来の都市像である「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」を実現するため、「つながりと創造」という基本姿勢のもとで、さまざまな取組みを行います。

① 「世界都市」の実現に向けて

〜めざす4つのまちのすがた〜

・世界の人が往来するまち：観光客受入体制の充実やコンベンション施設の具体的な検討、九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）完成に向けた取組みなどを行います。

・世界に貢献するまち：平和や医学などのさまざまな団体との連携や、世界で活躍できる人材の育成などを行います。

・世界から評価されるまち：世界遺産候補の登録推進やまちぶらプロジェクトの推進、夜景などの資源みがぎを行います。

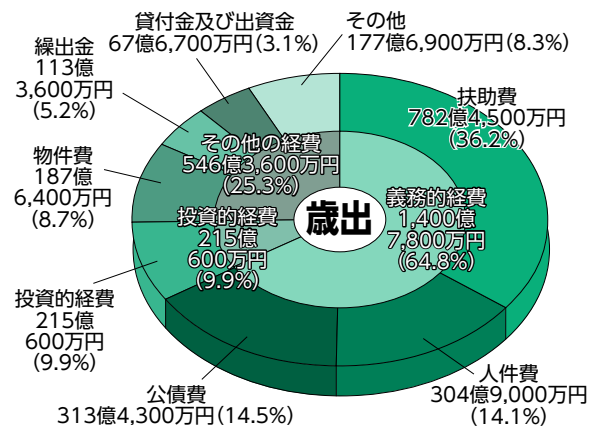
・世界とつながるまち：5500以上の世界の都市が加盟する平和市長会議での活動や、市民友好都市の提携などを行います。

② 「人間都市」の実現に向けて

〜主役は皆さんです！〜

「長崎にあった暮らしやすいまち」をめざし、地域コミュニティの仕組みづくりの支援、高齢者や子育て世代の交流の場の確保、ボランティア制度の見直しなど行います。

一般会計歳入歳出予算は、総額 2,162 億 2,000 万円



歳入のうち、市が自ら確保できる市税などの自主財源は33.1%。残り66.9%は国や県からの補助金や地方交付税、市債（市の借金）などで賄われます。

また、歳出のうち、急に減らすことが難しく、どうしても支払わなければならない扶助費（福祉関係の経費）や人件費、公債費（借金返済）などが64.8%を占めます。残りのお金を、そのほかの仕事にあてなくてはなりません。

このようなことから、市独自の行政サービスをより充実させるために必要な予算のゆとりはとて少ない状況です。

歳出を目的別に見てみると

| 費目 | 予算額 |
|--------------|------------------|
| 民生費 | 958 億 2,000 万円 |
| 土木費 | 224 億 4,500 万円 |
| 総務費 | 194 億 2,000 万円 |
| 衛生費 | 165 億 4,200 万円 |
| 教育費 | 137 億 9,700 万円 |
| 商工費 | 51 億 9,500 万円 |
| 公債費 | 313 億 4,300 万円 |
| 議会費等 そのほか | 116 億 5,800 万円 |
| 合計 | 2,162 億 2,000 万円 |

特集

市政

長崎市民

フューチャー
プレゼン

生活情報

健康

子育て

被爆者援護

福祉・税

講演・講座

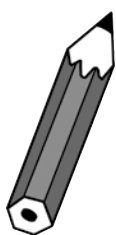
もよおし

おしらせ

募集

長崎市の当初予算（一般会計）を、家庭の家計簿に置き換えてみました。

| 収入 | | | 支出 | | |
|-----------------|-------|-------------|-------------|-------|-------------------|
| | 金額 | 備考 | | 金額 | 備考 |
| ①現金収入 | 166万円 | | ①生活費 | 325万円 | |
| 給料 | 119万円 | →市税 | 食費 | 71万円 | →人件費 |
| パート収入 | 38万円 | →使用料・手数料など | 医療費 | 182万円 | →医療費助成、生活保護など |
| 貯金の取り崩し | 9万円 | →基金繰入金 | 借入金（ローン）の返済 | 72万円 | →市債の元金や利子など |
| ②もらったり借りたりするお金 | 334万円 | | ②家の増改築費など | 50万円 | →道路や学校の 新築改修など |
| 親からの仕送り | 254万円 | →国や県からのお金 | ③その他の経費 | 125万円 | |
| 借入金（ローン） | 80万円 | →国や銀行からの借入金 | 光熱水費 | 43万円 | →光熱水費や委託料など |
| | | | 家具などの修繕費 | 4万円 | →施設の維持補修など |
| ※借入金（市債）残高563万円 | | | 子どもへの仕送り | 26万円 | →他の会計への繰出金 |
| ※貯金（基金）残高65万円 | | | 貯金 | 4万円 | →基金への積み立て |
| | | | その他 | 48万円 | →補助金負担金など |
| 合計（①+②） | 500万円 | | 合計（①+②+③） | 500万円 | |



収入は、自分で稼げる現金収入（①）が全体の33.1%と低く、親からの仕送り（地方交付税、国庫支出金など）に大きく頼った状況になっています。一方、支出は、食費など（人件費）の削減に努めていますが、高齢化などのため医療費（医療費助成、生活保護など）が増加していることから、貯金の取り崩し（基金繰入金）で収支不足を補っていて、非常に厳しい状況が続いています。

そういう中で、長崎市独自の行政サービスを行うために、「市民との協働による事業推進」「選択と集中による事業の重点化と業務の効率化」「効率的な行政体制の構築と人材育成」「健全な財政基盤の確立」を目標に、さまざまなやりくりをしています。

しっておきたい 市の貯金と借入金のこと

貯金

将来に備えた貯金の残高見込み（平成25年度末、一般会計分）は、282億6,927万1,000円です。

市民一人あたり
6万4,000円

借入金

借入金の残高見込み（平成25年度末、一般会計分）は、2,433億7,271万3,000円です。

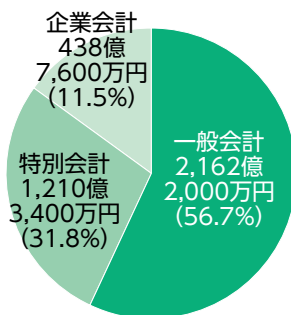
※より低利なものに借り換えるなど負担の軽減に努めています。

市民一人あたり
55万1,000円

※貯金・借入金とも人口441,882人（平成24年12月31日現在）で算出

しっておきたい ほかの会計のこと

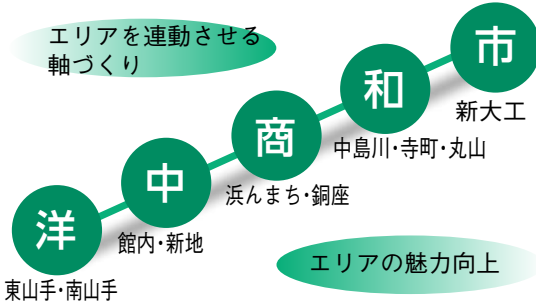
特定の収入（保険料や使用料など）により賄われる特別会計（12会計）と、その仕事自体に収益があり、支出を収益で賄う企業会計（2会計）があります。それぞれ次のようになっています。



全体 3,811億3,000万円

まちぶらプロジェクト

歴史的な文化や伝統が培われた古くからの市街地である「まちなか」の賑わいづくりを、長崎駅や松が枝周辺と連携させながら、市民の皆さんと一緒に賑わいの再生を進めるものです。



1 個性を活かした交流の拡大

重点テーマ

● まちぶらプロジェクトの取り組み (約9億9,000万円)

新大工から浜町を経て、大浦に至るルートをまちなかの軸にして、そこを中心にした5つのエリアの個性や魅力を、皆さんに「見える、体験できる」ものにします。

- ① 10年後のまちなかの未来像を皆さんと共有するための「まちなか未来予想図」を作成します。
- ② 路地裏の魅力発信や東山手・南山手エリアにバラを植栽し、まちなかの魅力を向上します。

● 「世界新三大夜景」を活かした取り組み (3,300万円)

- ① 稲佐山山頂展望台へお越しいただくかたのために、中腹駐車場から展望台にかけての遊歩道について、誘導サインや照明などを整備します。
- ② 銅冠山公園・立山公園の展望台の建替えに向けて、基本設計を行います。
- ③ 出島や観光丸のライトアップ演出をします。

● 「長崎さるく」進化の取り組み (1,000万円)

通さるく(ガイドとのまち歩き)の進化に向けたガイド研修や、長崎駅ガイドステーションの設置(金・土・日・祝日のみ)、PR映像や公式ガイドブックによる情報発信などを行います。

2 平和の発信と世界への貢献

重点テーマ

● 長崎原爆遺跡環境整備 (140万6,000円)

旧城山国民学校校舎や浦上天主堂旧鐘楼などの被爆遺構の文化財登録を推進し、説明板設置などを行います。



● 米国国立公文書館原爆資料調査 (686万3,000円)

原爆資料館の収蔵資料の充実を図り、被爆の実相を次世代に継承していくため、米国国立公文書館に保存されている原爆に関する資料の調査と収集を行います。

● 核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ開催支援 (800万円)

2015年核不拡散条約(NPT)再検討会議へ向けて核兵器廃絶の国際世論を高めるために、11月2日～4日に原爆資料館などで開催される第5回「核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ」を支援します。

3 地域経済の活力の創造

重点テーマ

● 地場産品の掘り起こしと商品力強化推進 (139万円)

魅力ある地場産品の掘り起こしと磨き上げにより、商品力を強化し、販路拡大を図ります。

● 長崎南商業高等学校跡地の整備と企業誘致推進 (1億4,000万円)

製造業向け企業立地用地として、敷地造成や環境整備などをします。今年11月末整備完了予定です。

おもな
今年度のしごと

総合計画に掲げる「将来の都市像」の実現に向けて8つの重点テーマに沿った事業を行います。その事業の一部をご紹介します。

特集

市政

長崎市民

プレゼンテーション

生活情報

健康

子育て

被爆者援護

福祉・税

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

4

重点テーマ

環境との調和

● ながさきソーラーネットプロジェクト (900万円)

将来の低炭素社会の実現と、より安全でクリーンなエネルギーへの転換をめざして、市民・事業者・行政が連携（ネット）した再生可能エネルギーの導入への取組みを推進します。

① 温室効果ガス削減のため、メガソーラー（大型太陽光発電設備）を三京クリーンランド埋立処分場に整備します。

② 市保有の土地・建物の屋根などを太陽光発電事業者へ積極的に提供します。

③ 市内の環境 NPO が、再生可能エネルギー転換に賛同する市民の出資による「市民エネルギーファンド」の設立を準備していることから、連携支援します。



メガソーラーイメージ

● 街路灯の LED 灯への転換 (1 億 5,600 万円)

省エネルギー推進のため、今年度から 5 年間で、既存の蛍光灯の市有街路灯を LED 灯へ転換します。

6

重点テーマ

ともに支え合い、いきいきと暮らせる地域社会の実現

● お父さんに育児手帳 (94 万 5,000 円)

父親としての自覚を育みながら、育児ができるように手帳を市が独自に作り配布します。

● 育児支援の取組み (319 万 8,000 円)

子育て中の保護者の育児不安解消のための講座を行います。また、初めて育児をする母親を支援する講座の推進役として、24 人のコーディネーターを養成し、親育ち講座を開催します。

● 慢性腎臓病 (CKD) 予防啓発 (194 万 5,000 円)

慢性腎臓病 (CKD) 予防のため、公益法人と連携して CKD 予防啓発ツールなどの制作や、働く世代を対象にした意見交換会を実施し、CKD の危険性や健診の必要性を市民の皆さんにお知らせします。

8

重点テーマ

多様な主体による地域経営

● 地域コミュニティの活性化 (1,000 万 5,000 円)

地域自らが主体となった地域コミュニティの仕組みづくりを進めるため、地域の力を集める場の開催支援や、自分たちの地域をよくするために地域の団体が連携して行う活動への支援をします。

5

重点テーマ

安全・安心で快適な暮らしの実現

● 市民の防災力向上の取組み

(2,297 万 6,000 円)

結成から 10 年以上経過している自主防災組織の老朽化した防災資機材（ヘルメットなど）の再助成を行います。また、活動事例の紹介や防災訓練の指導などにより、自主防災組織の活性化を図ります。

● 市役所建替えの基本計画策定

(670 万 4,000 円)

平成 31 年度に建替え予定の新しい市役所について、より具体的な機能や面積の精査などを行い、新市庁舎建設基本計画を策定します。

● 「車みち」の整備 (2,000 万円)

密集市街地などの斜面地で車が入ることができない市道を、地域の実情に応じた工夫により、車が入る「車みち」として整備し、居住環境と防災性の向上を図ります。

7

重点テーマ

創造的で豊かな心の育成

● 子どもの学力向上の取組み

(661 万 8,000 円)

小学 4 年生、中学 1 年生の標準学力テストを実施します。また、個々の児童生徒の課題に沿った細やかな学習指導を行い、小・中学校の連携を強化して、継続した学力向上に努めます。

● 国際理解教育 (1 億 6,625 万 4,000 円)

外国語指導助手 (ALT) を 26 人から 32 人に増員し、小・中学生が、給食や休み時間なども含め学校生活の中で外国人とふれあう環境をつくります。また、出島などを活用した国際交流の体験の充実なども図ります。

● 小学校の整備 (2 億 1,000 万円)

小榊小学校の移転改築のための基本・実施設計を行います。また、戸石小学校の校舎増築のための基本・実施設計を行います。

長崎市の